


棚田に吹く風

2020
秋
Autumn

季刊

- 
- 2 特集
棚田酒
秋の味覚に、棚田うまぐち純米酒
 - 5 フォトエッセイ
豪雪地の棚田とこれを支えるもの
 - 6 棚田・里山からのたより
棚田の景観とこれから
～都市部との交流～
愛媛県東温市井内
 - 8 トロノキファーム奮闘記
スマートな農業って？
 - 9 棚田博士は今日も行く
上毛高原・三峰山麓の棚田
群馬県沼田市石墨
 - 12 会員のひろば
 - 14 かつどうノート
スタッフのつ・ぶ・や・き
 - 15 Project Report



特集 棚田

酒

秋の味覚に、
棚田うまうち純米酒



案内人
大久保 芳洋

学生時代より新潟・松之山の棚田に通い稲作以外に本場の酒の味も覚え、本稿でも紹介した「和創良酒の会」に参加して棚田酒に溺れる。エコプロの人気コーナー「棚田里山酒めぐり」発案者。新潟清酒検定・銅の達人。

各地の棚田酒を求めては飲み続けているうちに、共通する特徴が分かってきました。「純米酒」が多いこと。原料米の品種が多様で、酒米に限らず飯米（ごはんとして食べる品種）も使われていること。米の「うまみ」が存分に引き出されていること…その秘密は、それぞれの棚田のテロワール（風土・土地の個性）そのもの。また棚田作業や酒造りオーナー、クラウドファンディングなど参加型のお酒が多く、自分のお酒として思い入れをもって楽しめるのも棚田酒の特徴。今回は、秋の味覚にもぴったりの厳選棚田酒をご紹介します。



右：蒸米の手ほぐし放冷。手がすべすべに／上：吊るし搾り。吟醸香がたまらない（いずれも河忠酒造にて「和創良酒」仕込み風景）





棚田米を学校蔵で醸したお酒
龍のめぐみ

尾畑酒造 岩首昇竜棚田（新潟県佐渡市）



棚田の景色を守るためにできること、それは棚田米を使った酒造りの挑戦でした。尾畑酒造2つめの蔵として廃校を再生した「学校蔵」が全国初の清酒特区として認定され、日本酒による地域活性化の使命を受けました。そして認定第2号のお酒は、「岩首昇竜棚田」のお米で仕込まれました。品種はコシヒカリ。尾畑酒造で飯米を使った経験はありませんでしたが、棚田を守るための挑戦としてクラウドファンディングも募り、「龍のめぐみ」が誕生。純米大吟醸レベルの製法ながら「無等級」とし、等級検査費用をも省いて棚田に還元することに。炊きたてのごはんのような甘みと旨み、昇竜棚田の朝日のような優しい味わいを、たくさんの人に知ってほしい。

造り手のひと言

日本酒は生産地の物語を伝える語り部だと思います。「龍のめぐみ」を通して、佐渡の昇竜棚田の雄大な風景や大地のエネルギーをお届けできれば幸いです。
尾畑酒造 五代目蔵元 尾畑留美子さん



地域の和を醸す酒
和創良酒

河忠酒造 蓮華寺の棚田（新潟県長岡市旧三島町）



募集情報

毎年2～3月に会員募集、新潟県内外問わず大歓迎。問合せ先：高野屋酒店（0258-42-2016）



地域の農家、酒蔵、酒屋、住民が一つになった酒づくり活動「和創良酒の会」が、今年で20周年を迎えました。会員になると、蓮華寺の棚田で春から秋までの酒米づくり、河忠酒造で冬の酒づくりに参加できます。作業後の交流会もお楽しみ（今年はコロナにより中止）。そして毎年1本の仕込みタンクから「春はおりがらみ、夏は瓶囲い生、秋はひやおろしと、変化を楽しめる3回に分けてお酒が頒布されます。棚田の作業が楽しくなる、酒好きにはたまらない活動です。20年間を振り返ると、杜氏さんが世代交代され、酒米は高嶺錦から越淡麗（新潟オリジナル酒米）に替わり、お酒の味は少しずつ進化しつつ、棚田の景色は変わらず守り続けられています。

造り手のひと言

この活動を20年続けてこられたのは何より会員の皆さんのおかげです。このような棚田地域まで足を運んで作業してくださる会員さんに感謝。
和創良酒の会世話人 河内和幸さん・関充夫さん



地元愛・自然愛
棚田五百万石

籾上清酒 大原新田（島根県奥出雲町）



奥出雲町の大原新田では、地元酒蔵・籾上清酒の契約栽培で「五百万石」と「佐香錦（島根オリジナル酒米）」が作られています。そして仕込まれるお酒の名はずばり「棚田五百万石」。幅広い層に美味しく飲めるようにと長年磨かれ、棚田を思わせるきれいな味わいの、同蔵一番の辛口酒です。純米と本醸造の飲み比べも楽しめます。そして佐香錦が使われるのは、更に上級グレードの「七冠馬 山廃純米吟醸」。蔵の社長さんが飛行機から見た房総半島の棚田に感動したことがきっかけで、地元の大原新田での酒米づくりを決意。自ら水路整備や稲作にも関わりながら、この棚田の「馬い酒」が誕生し、「地元愛・自然愛」カテゴリーの代表銘柄になっています。

造り手のひと言

大原新田の棚田は道路からのアクセスが良く、広々とした眺めが楽しめるお勧めの場所です。ぜひ見に来て、この里山の風景を感じてほしい！
籾上清酒 田村昭男社長



水路を守る棚田酒 上堰米のお酒

大和川酒造店 本木・早稲谷（福島県喜多方市）



◆お得情報◆

福島県産品EC支援事業により、お酒1本から送料無料キャンペーン中！大和川酒造店のwebショップから購入できます。（2021年1月29日まで）



本号表紙写真になっている飯豊山麓の棚田を潤す水路「本木上堰」は江戸時代に開削され、地域住民に守り続けられてきました。今では毎年、雪解けとともに「本木・早稲谷 堰と里山を守る会」のもとに江津のポランティアが駆けつけます（※2020年度はコロナにより残念ながら中止、地元メンバーのみで実施）。

そして、当地の棚田米コシヒカリ・ひとめばれで仕込まれる純米酒が「上堰米のお酒」です。なんと、売し一本につき200円が「守る会」に寄付されるという、まさに「飲んで守る」棚田酒となっています。サラリーマンから転身して当地に移住し、棚田の守り人として冬の蔵人を兼業した浅見さんが仕掛け人となって誕生した、棚田酒の先駆的存在です。

造り手のひと言

このお酒一本に4合、量一量分の玄米が使われています。ぜひ飲んで応援をお願いします！

本木・早稲谷
堰と里山を守る会 兼
大和川酒造店 元蔵人
浅見彰宏さん



白ワインのような棚田のお酒 フィラランド 夢名酒（むめいしゅ）

森酒造場 春日の棚田（長崎県平戸市）



◆お得情報◆

「秋限定 宅飲み3本セット」送料込み5,000円がオトク！前代未聞の個性派棚田酒セットです。



中世の平戸を描いたラベルに、日本酒度マイナス70・アルコル度9%という超個性派のこのお酒、原料米は全量、春日の棚田のコシヒカリ。2018年夏に世界遺産に登録された当地を広くアピールしたいという思いから、地元の森酒造場が同年にクラウドファンディングに挑戦し「フィラランド 夢名酒」が誕生しました。同蔵では平戸の風土にあった酒づくりのため積極的に棚田米を使用しており、蔵の代表酒「HIRAN 2020 純米大吟醸」の掛米も春日の棚田のコシヒカリ・ヒノヒカリ。純米酒「飛鷹純米65」は根獅子の棚田米「こまる」（九州オリジナル飯米品種）を使い、限定ひやおろし「秋ひらん」として素敵な棚田ラベルとともに楽しめます。

造り手のひと言

棚田の原風景を、酒造りを通して来世に残りたいという想いがあります。今回のお酒はどれもフルーティで芳醇、よく冷やしてワイングラスで飲むことをおすすめします。

森酒造場 女将 森公子さん

買える・参加できる棚田酒

場所	棚田の名称	お酒の名称	お酒の企画主体/酒蔵	参加・体験
福島県喜多方市	柳津揚津棚田	特別純米 棚田の煌	喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンター/会津錦	有（仕込み体験）
千葉県鴨川市	大山千枚田	純米吟醸 大山千枚田	亀田酒造	-
千葉県鴨川市	大山千枚田	棚田物語 / 棚田の舞	大山千枚田保存会/亀田酒造・岩瀬酒造	有（酒オーナー）
新潟県長岡市	栃尾、雷地区の棚田	「杏醸」シリーズ	棚田の生き物を愛する会/越銘醸	有（活動参加）
新潟県長岡市	旧山古志村の棚田	特別純米 山古志	お福酒造	-
新潟県小千谷市	冬井地区の棚田	「田友」シリーズ	高の井酒造	有（サポーター）
石川県輪島市	白米千枚田	純米酒 千枚田	清水酒造店	-
長野県長野市	旧大岡村の棚田	積善 GINZA	GINZA ミツバチの会、JA 長野ほか/西飯田酒造店	有（活動参加）
長野県千曲市	挟捨棚田	特別純米 棚田	長野銘醸	-
長野県上田市	稲倉棚田	信州亀齢 稲倉の棚田産ひとごち純米吟醸	稲倉棚田保存会/岡崎酒造	有（酒オーナー）
長野県小谷村	中谷の棚田	純米吟醸 雨節山	北安醸造	-
岐阜県恵那市	坂折棚田	さかおり棚田米仕込み	坂折棚田保存会/千古乃岩酒造	-
滋賀県高島市	畑の棚田	純米吟醸 里山	福井弥平商店	有（酒オーナー）
京都府福知山市	毛原の棚田	黒の大鬼 / 赤の大鬼 純米吟醸原酒	大江で地酒を造る会/ハクレイ酒造	有（活動参加）
京都府京都市	越畑	越畑祝 100% 純米無濾過原酒	越畑酒づくりの会/招徳酒造	有（酒オーナー）
山口県長門市	油谷向津具の棚田	純米大吟醸 むかつく	長門市地域おこし協力隊/阿武の鶴酒造	-
徳島県上勝町	檜原の棚田	上勝の棚田と湧水と負いん気でおこした純米吟醸原酒	高鉾建設 酒販事業部	-
長崎県川棚町	日向の棚田	虚空蔵の恵み	川棚町観光協会/梅ヶ枝酒造	-

※ウェブ販売やふるさと納税でも見つけられますので、検索してみてください。 なお今回は棚田米のお酒＝日本酒に限定し、どぶろくや焼酎は割愛しました。その他の銘柄は「棚田 NAVI」にて今後ご紹介していきます。

豪雪地の棚田と これを支えるもの



写真・文
宮澤 幸雄



蒲生の棚田のシンボル
「一本杉」

今号では棚田のメッカ新潟県十日町市松代地区の中でも全国的に有名な「蒲生の棚田」を紹介します。

この棚田はS字曲線を描く優美さが魅力的で、また山に囲まれた窪地にあるため晩秋の快晴で冷えた早朝にはいわゆる放射霧と呼ばれる霧が発生しやすく、かつ日の出後も長時間漂って幻想的な棚田風景を醸し出してくれます。

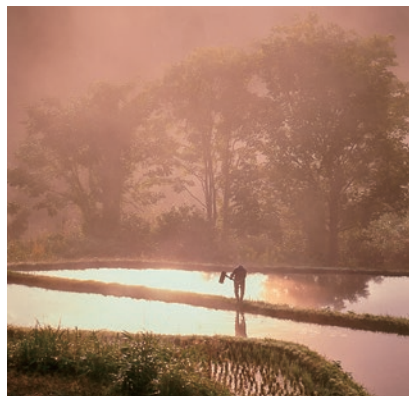
かつて、ここにはシンボルとなる「一本杉」がありました。ここで撮影するほとんどの方がこの「一本杉」をモチーフに入れて撮影していました。絵になるシンボルでしたが、地権者によって伐採されました。「一本杉」目当てに畦に入ってから撮る心無いカメラマンが後を絶たず、困った地権者が伐採したのでは無いかな等の憶測が飛び交いましたが、理由はどうやらこの杉の木の中が腐っている危険と判断されたというのが真相のようです。いずれにしてもこの「一本杉」はもう存在しません。当時の写真でしか再現できないのです。

晩秋の棚田の畦は薄つすらと初雪を装い、立ち込める放射霧がオレンジ色に染まって幻想的な光景を捉えたもので、左手前にこの「一本杉」を入れて構図を決めた貴重な一枚となりました。写真集『ブナと棚田の物語』に掲載。



宮澤 幸雄
みやざわ ゆきお

1955年新潟県十日町市に生まれる。新潟県警察官として在職中の1994年、風景写真家宮下正巳氏(新潟県妙高市在住)に出会い心酔し、指導を受けながら風景写真撮影を開始する。専ら旧東頸城郡(現十日町市)のいわゆる豪雪地帯のブナ林を対象に撮影をしていたが、当地の棚田に展開する四季の風景に魅了され傾倒。退職と撮影20年を機に写真集『ブナと棚田の物語』(風景写真出版刊)を上梓。これまで同名の写真展を住居地の上越市内にて3回開催。



「棚田守」
稲刈り後水鏡になった蒲生の棚田の畦を直す農夫を逆光で捉えたもの。このような方々によって棚田は支えられています。感謝です。

棚田・里山
からの
たより



棚田の景観とこれから都市部との交流

井内地区について

松山市の東隣り、松山中心部より25キロ、道後平野の最奥部に位置する東温市井内地区です。地区の南や東の方向には千メートル級の山々が連なり、高さ西日本一の石鎚山（1982m）山系の一部でもあります。

標高300〜650メートルの集落一帯に棚田が広がり、全貌を一度に見ることはできませんが、上空から俯瞰する景観が注目を浴びています。

昔からしきみ榊（※）の栽培が盛んで棚田周辺部にも榊が植えられ、経済的にも年間の収入に大きく寄与しています。榊は年中収穫でき、枝打ちをすればするほど良い榊が取れ、棚田が日陰にならないためにも重要で、「棚田と榊の共存」が生かされている数少ない集落です。今日まで棚田が荒廃しなかった理由に榊の植栽が大きく貢献しています。

地域の魅力

平成12〜15年に、3年間かけて棚田の整備が行われました（写真参照）。整備前と整備後では枚数は3分の1ほどに減っていますが、今なお集落一帯に棚田が広がる景観に目が留まります。各地で棚田の荒廃が憂慮される中、棚田の維持継続に向けて強い使命感を持ち、訪れる人の目を楽しませ癒しの空間が醸し出されています。また、山あいにある井内地区には城跡、いにしへの街道筋には常夜灯があり、遍路道の痕跡、滝、水の神・山の神さんの祠など、歴史遺産が今も残っています。

都市部との交流

30数年前、自然豊かな里を四季折々の花々で彩りたいと、古民家農家レストラン〈ぼたん茶屋〉を開設し、また「どぶろく」の製造販売、囲炉裏を囲んでの食事など、地域内外の人たちが憩う場所となっています。

愛媛県東温市井内
とうおん
いうち



1: 天空の田んぼ / 2: 田植え前 / 3: 新米祭り / 4: 水神様

※榊：香気があり、墓・仏前に供える植物。年中収穫でき、春・秋彼岸、盆月、正月には需要が多い

す。しかしながら、棚田の保存に向けての連鎖反応は今一歩弱く、必ずしも活性化に向けた活動になっていませんでした。

そこで、5年前に井内地区活性化協議会が発足し、3年前には地域内外の人たちを呼び込もうと古民家宿泊施設〈人空田〉が開設されました。そして、中山間地直接支払制度要綱に沿って田植え、稲刈り、収穫祭、棚田ファンクラブ会員（20〜1万円）募集、愛媛すごいもの博での井内米販売、集落での新米祭りなどを行ってきました。

「愛媛すごいもの博」は愛媛県で一番大規模なイベントです。愛媛の特産物は勿論、県外からもたくさんの特産物が出品されます。場所は松山城を見上げる城山公園で、十数万人の来場者があります。また、井内集落での新米祭りでは、新米、沢山の野菜類、手作りの漬物・こんにゃくなど出品。豚汁、塩（縁？）むすびのおにぎり、餅、おはぎなどが振る舞われ、こちらも大勢の訪問者で賑わいます。

しかし、農作業をしながらの外部イベントへの出展、地域でのイベン

ト開催、さらに宿泊施設の運営は多忙を極め、告知宣伝も十分でなく、継続した取り組みができない状況になりました。

こうした状況下、古民家の持ち主であるオーナー（ぼたん茶屋店主）が人空田のすべての管理運営を引継ぎ、新たな一歩を踏み出すことになりました。また、行政からも今年9月「地域おこし協力隊」を専任に受け入れ、地域活性化のために活動することになりました。

今後の課題 「生産のための棚田」と 「観光資源としての棚田」

棚田を取り巻く環境は大きく変



上:古民家宿泊施設〈人空田〉／左:「愛媛すごいもの博」での井内米販売

わってきており、過疎化や高齢化は深刻です。

先人が開墾した棚田景観を保存する上でまず必要なのは、地元の人たちの思いに耳を傾けることです。新たな取り組みを模索する中、都市住民との関わり方にも考えなければならぬことが多々あります。

今後は今までの活動を通じて、都市部の人たち（ぼたん茶屋〈人空田〉のリピーター）との交流によって、より広く多くのファンづくりに取り組むことが当面の問題であり、そこから新たな活動内容（事項）を見出したいと思えます。

（ぼたん茶屋）店主 永井公二

棚田へのアクセス

- 【公共交通】 伊予鉄・横河原駅より伊予鉄バスで井内北間行きに乗車、井内下車。所要時間約20分
- 【自動車】 松山自動車道・川内ICより国道11号経由で県道210号に入る。ICより約7km

お問い合わせ

古民家農家レストラン 〈ぼたん茶屋〉
Tel. 089-966-3981



整備後の棚田（現在）



整備前の棚田（20年ほど前）

トロノキファーム 奮闘記



池田 徹



「楽しいこと、美味しいこと、気持ちいいことしかない」をポリシーとする棚田オタク集団のトロノキファームには様々な愉快な面々が集います。

稲作において重要なのが水の管理。今年の春は、極端な暖冬少雪による水不足で大変でした。そんな中、圃場の水管理システムを作る楽しい人との出会いがあり、この夏、儀明の棚田に設置し実験をしています。水位計と水温の自動観測装置からデータは随時スマートフォンに送られ、またスマートフォンから「ボチツ」と押すと水門の開閉も遠隔で操作することができます。十日町と東京の二地域居住をするものとしては、いつでもどこでも水田の水管理がスマートフォンからできることなることとカッコよく少年心が蘇ります。

天水とスナの森の育む水を使うこの稲作、豊かな生態系の中での虫取りや野鳥観察、実験や工作、休耕田にひまわりの種を蒔く等々。毎日が幼い頃の夏休みの様で、棚田は理系男子にとっても、おもちゃ箱をひっくり返した様な場所です。

さて、10月はトロノキファーム初めての稲刈り。コロナ禍でなかなか旅行や宿泊が難しいですが、様々な個性を持つ人たちが、多様性豊かな棚田に集う日が早く戻ることを祈っています。

Toronoki Farm Story

スマートな棚田未来図

写真・文 中崎 義己

第1回「ラジコン草刈機」in 天王棚田 (大阪府豊能郡能勢町)



背丈ほどもある草をなぎ倒し、返す刃で刈り取って粉碎。ジャングルのようだった休耕田がまたたく間に再生されていきます。しかも安全な場所から指先だけで。大阪府豊能郡能勢町天王。標高500m、人口130人のこの地区も、後継者不足のため棚田が荒廃しています。

そんな中、地元の生産者有志が起ち上がって結成された天王ナチュラルファームが、農水省の令和2年度スマート農業加速化実証プロジェクトに採択されました。実証課題は「スマート農業による中山間地農業振興と関係人口・交流人口の増加」。

その一環で、アテックス社製ハイブリッドラジコン草刈機「神刈 RJ700」が導入され、8月29日、能勢町長はじめ府議、町議、大阪府関係者など総勢50人の前で実演運転が行われました。

神刈の特徴の一つは45度の法面でも使えることですが、実際に使ってみてハイブリッドの素晴らしさを感じました。つまり走行は電気モーターで音もなく動き出し、エンジンの18馬力はすべて草刈りのために使われるのです。

天王棚田再生の取り組みは、それまで地元農家さんと都市住民ボランティアが人力で行ってきましたが、神刈の登場で一気に楽しく、スマートに進みそうです。そして来春までに約3反の棚田を再生し、イネ科の植物、真菰(マコモ)を栽培する予定ですが、このお話はまた。

上:休耕田の草をなぎ倒す「神刈」
下:再生した棚田でマコモを栽培

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

上毛高原・三峰山麓の棚田

群馬県沼田市石墨



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

棚田の9割が圃場整備

集落と耕地は、四釜川両岸の長さ
1・7^キ、幅500^ミの河岸段丘上
にあり、山際の半分は桑畑か畑地、
川沿いの半分が棚田だ。棚田の面積
は42^ハ、そのうちの39^ハは昭和56年
〜平成元年にかけての団体営事業
による圃場整備が行われており、残
り3^ハが未整備の棚田。左右両岸で
は4分の3が右岸、4分の1が左岸
にあり、そのほとんどが整備された
棚田である。

これらの棚田は、傾斜6分の1〜
11分の1の斜面に3〜4^ハのまと
まりになって10数団地を形成、その

見本市」に石墨を舞台にして活動す
る薄根地域ふるさと創生推進協議
会が出演していたことでその存在
を知った。

早速2020年2月上旬、沼田市
石墨を訪ねた。東京から新幹線で高
崎まで行き、在来線の上越線に乗り
換える。列車は前方左に榛名山、右
に赤城山を見ながら北上、両山を後
にして渋川を過ぎた辺りから利根
川の河岸を溯るようになる。鉄橋を
渡り、左岸、右岸の走行を繰り返し
た後、河岸段丘の街としても知られ
る沼田に到着。真っ白に化粧した谷
川岳に迎えられる。現地までは、駅
前のバス乗り場4番から1日6便
運行される関東交通バス佐山線を
利用し十間橋で下車すればよい。

沼田市は県の北部、越後から三国
山脈を越えて関東平野に入る喉元
に位置する。このため、戦国時代は
越後の上杉と関東の北条にとって
重要な戦略的な拠点を占め、両軍が
攻防を繰り返した沼田城がある。現
在の沼田市は木材木製品、家具製造
業などが盛んであり、尾瀬国立公園
へ通ずるルートの入口にある都市
としても知られている。

谷川岳が迎えてくれる棚田

石墨は、沼田の中心市街地の北4
^キの距離にあり、標高1122^ミ
の三峰山の東麓、四釜川の河岸段丘
上にある集落。これまで群馬県は
百選の棚田もなく、棚田に関する
情報はほとんど聞かれなかったが、
2020年1月に新宿区が毎年開
くエコワークショップ「まちの先生

うちの1団地が未整備の棚田である。整備された棚田は団地ごとに6〜7段からなり、長方形で1枚の面積は10〜20^坪、土坡の法面の高さは4〜5^尺ほどもある。年5回といわれる草刈の苦勞が偲ばれる。法面は整備前は未整備田同様、下部は石積みで上部のみが土坡だったそうだ。

未整備の棚田は、集落中央部の右岸にあり、10数段、等高線型で1枚の面積は2〜3^坪、法面は下部の半分が石積み、上部が土坡になっており、高さは1〜2^尺ほどである。特徴は山際側にヨケグロとよばれる幅30^{cm}程度の溝が必ず設けられていることだ。手ですくい上げて作られるものだが、山側からしみ出す冷水を直接本圃に入れないための溝である。また、灌漑水を温めるため

の導水路としても用いられ、長野県の高冷地水田ではヌルメとよばれている。

棚田を語る四人のメンバー

現地では棚田を活用した地域活性化に目覚めた薄根地域ふるさと創生推進協議会の中心メンバーにお会いした。協議会は、石墨町未来の会、NPO法人沼田未来の会、元気会などを母体にした団体、その会長が小池大介さんだ。

小池さんは70歳、奥さんと介護を要する98歳の母親を抱える世帯であり、市内の井土上町に居住する地域住民である。高校卒業後、三井建設に入社、5年間務めた後、転職して沼田市役所に入庁、59歳で退職した。在職中から出稼ぎに励む父親に代わ

り、農業にも従事、兼業農家になった。圃場整備された水田3枚、43^坪と自家菜園として利用する畑5^坪をトラクター28馬力、乗用4条田植機のほかバインダーを駆使して耕作、収穫は1枚をバインダーで刈りハサ掛けを意味するハツテ掛けにして天日乾燥する。他の2枚は地区の農家に作業委託しているそうだ。

副会長の山口耕さん72歳は奥さんと二人だけの世帯、四釜川左岸の東石墨に住む地元耕作農民だ。高校卒業後、神奈川県大和市の日産系工場のプレス工として3年間、ミシンのセールスを7年間行つた後、28歳の時国立病院の職員になった。国立病院では60歳の定年まで沼田・千葉・立川・新宿・世田谷など10か所の病院に勤務した。国立病院を定

年後も65歳まで前橋の民間病院に勤めた。この間、沼田と前橋に勤めた以外は単身赴任し、土日に帰省、農作業を続けてきた農に心の熱い根性のある兼業農家だ。

個人で瀬町直しをした棚田20^坪、7枚を所有、それぞれに右岸同様ヨケグロがある。トラクター15馬力、乗用4条田植機、バインダーを用い耕作しており、刈り取つたイネはハツテ掛けして天日乾燥米として収穫、自家消費のほか子供や親族・知人にあげているそうだ。

田村精一さん63歳は、奥さん、長男32歳、母親90歳と同居する4人の世帯。右岸の西石墨に住む地元の専業農家で、俺は百姓だという雰囲気を持った人である。農業高校卒業と同時に就農、米の生産調整が始まった頃であり、養蚕とコンニャク・シイタケ栽培が宮農の3本柱だった。なかでも養蚕が大黒柱で1・5^畝の桑園を持ち、不足分は桑葉の購入まで行いまゆ1・5^トを出荷する大養蚕農家だったそうだ。しかし昭和から平成に代わる頃には養蚕は衰退に向かい、転作を余儀なくされ、その対応として叔父の家に、8年間通いりんご作の修行に励んだ。



1: 圃場整備された部分 / 2: ヨケグロ / 3: 圃場整備前の写真 / 4: 左から田村さん、桜井さん、小池さん / 5: 小池さん (左) と山口さん

現在は、かつての営農の3本柱すべてを止め、水田40[㍓]を矮化栽培によるりんご園にして本人、奥さん、長男の3人が働く果樹作の専業農家になった、大型機械としては消毒用の薬剤を散布するスピードスプレーヤーを所有。悩みは矮化栽培の寿命が30年といわれ、そろそろその時期を迎え、植え替えにかからねばならないことだ。

桜井勇一さん66歳、奥さんを亡くしてから独居世帯。市内の善桂寺町に居住する地域住民だ。高校卒業後、前橋の日本精工に技術者として入社、62歳の定年まで勤務した。家には20[㍓]の水田があるが、父親が亡くなってからは従兄が耕作しており、農業の経験はないという。しかし、NPO法人沼田未来会の理事をしていた関係から協議会に関わるようになり、今や地域活動に対する熱意と能力により会の事務局長的存在になっている。

活動の拠点は「くわのみハウス」

ところで、協議会は2018年12月に発足、まず空き家を利用し「くわのみハウス」と名付けた活動拠

を設けた。そして早速取り組みを開始、2019年から耕作放棄田を活用し都市住民との交流を図る棚田オーナー制を立ち上げた。私が分類した類型によれば農業体験・交流型、すなわち田植え・稲刈りの体験と観察会・収穫祭のイベントを組み合わせたもので、1[㍓]当たり約3万円の料金で約40[㍓]の白米が貰えるというもの。初年度東京・横浜・県内の太田市などから8組の応募があったという。

協議会では、この取り組みのため、会長と副会長の2人が機械類



活動の拠点「くわのみハウス」

を持ち込んで田づくりなどの作業を担い、体験当日やイベントの時のオーナー対応に他の会員が当たっているそうだ。会員としてはさらに地域の鉄工所の経営者や従業員、福祉センターのバス運転手などが加わり、地権者以外の地域住民が取り組みを担っているのが特徴だ。今後、地権者の高齢化で放棄地の増加が予想される山村・棚田地域にあってはこのような地域住民の支援が必須になるものと考えられ、その意味で当地域の活動は注目される取り組みといえるだろう。

棚田へのアクセス



【公共交通】 上越線沼田駅前より関越交通バス佐山線に乗り十間橋で下車すぐ。運行本数1日6便。バスの所要時間は約15分

【自動車】 関越自動車道・沼田ICより高速道路側道または国道120号を経由し県道265号線を北上、「薄根の大クワ」を過ぎると石墨地区に着く。ICより約6km



沼田駅から見る谷川岳



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて) 千一六〇〇〇三三 東京都新宿区西新宿七一八ー一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

芸術祭で棚田に出会う

千葉県柏市 八十 華世



私が棚田の保全について知るきっかけとなったのは、2015年に開催された越後妻有アートトリエンナーレ~大地の芸術祭でした。

松代の里山にアート作品が溶け込む風景が気に入り、芸術祭後の新米の時期に合わせて再訪した日、文化施設「農舞台」の里山食堂で地元の食材に舌鼓を打ちながら、窓の外に見える代表的作品「棚田」を眺めていましたが、手元の棚田バンクのパンフレットに目をやり、この風景を維持する一端を担えるのかな、とその場で里親登録をしました。

そして、自分の居住地に近い場所でも棚田を守る活動が行われているのだろうか、と検索したところ、棚田ネットワークにたどり着いたわけです。以降、棚田ネットワークでは、鴨川市の川代棚田の田植えと稲刈りに参加させて頂



ています。緑あふれる長閑な里山の風景に癒されながらの作業は、年に2回しか来ない身としては爽快なくらいですが、同時に米作りの苦勞の一片を体験でき、一粒も無駄にたくない思いが強まります。

旅先で棚田に立ち寄ることもあります、印象的だった所に、水俣市の寒川、十日町の星峠、小豆島の中山千枚田、豊島の唐櫃などがあります。島は瀬戸内芸術祭で訪れました。

最近、地方で開催される芸術祭は、その土地の背景を組んで制作された作品が風景に溶け込むように配置されており、棚田も作品の一部となっているので、私の場合のように芸術祭を目的に訪れた人が棚田を知り、保全につなげる機会になるかもしれません。

美しい景観だけでなく、保水や涵養といった役割を持つ機能美な棚田。防災機関に勤める身としても、棚田の保全に関わり続けていきたいと思っています。



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号 「棚田に吹く風 ベストショット」宛 メールでも受け付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp



四谷の千枚田

愛知県新城市 小山 舜二

真正面から観る姿は日本一と自負する「四谷の千枚田」、訪れる人たちに感動と癒しを提供している。新型コロナウイルス感染拡大を危惧したコロナ回避族で空前の賑わいをみせている。

棚田散歩

新潟県十日町市松之山
大荒戸の棚田

山里の隠れ棚田

私がこの棚田を知ったのは、市観光協会の棚田マップに記載があったからである。とはいえ棚田マップを頼りに現地付近に着いたが棚田らしき景色は一向に見当たらない。

止む無くスマホを開きグーグルの航空写真真地図や国土地理院のマップで詳細を確認してみると、市道から細い道が谷筋まで伸びている軽トラ道らしきものがある。その道に沿い、一〇〇mほどのうっそうとした林を抜けると、突然明るく開けた空間が現れた。その先を見下ろすと、20数枚の棚田が目飛び込んできた。

こぢんまりとした棚田ではあるが、周りには人工物が何一つなく、棚田の合間にはわずかに谷となつた小川もあり、そこにはうまい具合に木々が残されている。よく見ると風情のある溜池も垣間見ることができ。長い時を経て形作られた自然の創作と、棚田が織りなす景観はまさに絶品である。このような棚田も後世に残ることを願うものである。

(埼玉県深谷市 岡田洋民)



透子のセカイ



主演・透子役 吉本実憂 / 監督・曾根剛 / 脚本・中村元樹
プロデューサー・源田泰章
©2019映画「透子のセカイ」製作委員会

巫女として働く透子(とうこ)は、村人たちから呼び出されては一緒に遊んだり、くだらないことをしたりと、いつも笑いの絶えない日々を過ごしていた。そんなある日、透子は楽しみにしていた村の祭りが古い言い伝えのせいで中止になることを知る。どうしても祭りをやりたい透子は、みんなの反対を押し切って一人で準備を進めるが、湖で不思議な少女と出会ったことで、事態は思わぬ方向へと転がっていく……。

主人公・透子が千曲市の美しい姨捨棚田で歌うシーンは必見です。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



著者：中澤克昭
2,500円(＋税)
出版社：山川出版社
2018年8月

肉食の社会史

日本人は古来から米を聖なる食べ物とし、米と味噌汁と野菜や魚を中心にした和食を食べ、明治の文明開化まで肉は穢れた食べ物として忌避されたというイメージが一般的である。しかしそれはあまりにステレオタイプなイメージであり、仏教の殺生戒が伝来する前やその後も肉食は身分や地域の違いにより多様な文化を形成していた。また、そこには殺生・差別をめぐる日本人の葛藤の歴史があったことを希少な資料から学術的に論じられる本書は、日本の食文化史に二石を投じている。

旧暦棚田ごよみプロジェクト始動

2020年8月21日 報告 久野 大輔

令和3年版「旧暦棚田ごよみ」の制作プロジェクトがスタートしました。今年はコロナ禍の中、写真家の青柳健二さんも撮影旅行にほとんど行けず、候補写真にも限りがあり、選定作業は難航しました。その分、写真の素晴らしさから毎年候補に上がりながら、地域やアングルのバランスなどで未掲載になっていた棚田を多くとりあげました。棚田に行きたくてもなかなか行けないご時世。せめて「旧暦棚田ごよみ」で、みなさんの棚田心を満たせるよう制作に努めております。



棚田NAVI、続々とアップ中!

2020年9月15日 報告 高桑 智雄

4月17日に50地域の掲載でオープンした全国の棚田(千枚田)検索サイト「棚田NAVI」が10月中には100地域(東北7地域、関東5地域、信越・北陸16地域、東海9地域、近畿12地域、中国17地域、四国16地域、九州21地域)に達する予定です。特集記事の更新や閲覧人気ランキングも追加されました。ちなみに現在、閲覧人気一位は「丸山千枚田」、二位「蘭島」、3位「白米千枚田」(9/15現在)です。またFacebookページ及びTwitterの公式アカウントも公開しましたのでフォローをお願いします!



棚田ネットワークの かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

棚田番長ありがとつごいきました!

石部棚田の「棚田番長」こと、高橋靖さんが8月9日、お亡くなりになりました。石部の保存会の前会長さんで、初代会長で去年お亡くなりになった高橋周蔵さんとともに、石部棚田の再生・維持に尽力された方でした。

棚田作業に行くと、いつも原チャリでプーっとやって来て、「終わったか〜! よくやったな〜、今日はどこ泊まる?」とにこやかに優しく声をかけてくださり、ヘトヘトになった私たちの疲れを癒してくれました。いつしか棚田に行くと、靖さんを無意識に探している自分がいました。靖さんに会えることが棚田に行く動機のひとつにもなっていたとも思います。

棚田番長、本当にありがとつごいきました。そしてお疲れ様でした。でも靖さん、そうはいつでも今でも毎日棚田のどこかにいらっしやいますよね! また優しく風を吹かせて、知らせてくださいな!

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
うっかりネジ



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

新型コロナ禍の中で 稲刈り体験



今年は新型コロナ禍で田植え体験は中止となり地元農家に全て植えてもらいました。梅雨明けが遅く生育の遅れが心配されましたが、8月の猛暑で回復し無事収穫期を迎えることが出来ました。新型コロナで各地の稲刈り体験が中止になるなか心配されましたが、地元の皆さんの決断でオーナーと同じ9月6日に実施することが出来ました。

当日は台風10号の余波の雨も持ちこたえてくれ、オーナーさんは待ちかねたように大勢参加し、久しぶりに棚田に活気が戻ってきました。ところが、参加者はキャンセルもあり最終的に5名の少数精鋭。途中から地元の皆さんがどんどん手伝ってくれ、みるみる刈り取られハザがけは台風でも倒れないと自慢するほどのプロの技を見せていただき、昼前には終了しカレー弁当をいただくことが出来ました。

参加された皆さま大変お疲れ様でした。また地元の皆様お世話になりました。新型コロナ禍が早く収束し安心して棚田を楽しめるように祈りながら、川代を後にしました。
(小川順子・杉山行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

ビオトープ観察会



今年は新型コロナウイルスのため、「こどもビオトープ観察会」は開催できず心配だったのですが、七十二節気の大雨時行たいうときどきふるの頃、8月1日に無事開催することができました。参加者は私も含め、用紙に氏名、住所、体温、健康状態を記入、アルコールで手指を消毒、屋外での活動ですが密になるときは、小さな子供を除き、マスクの着用をお願いします。暑い晴れ間の中、14名（大人6名、子供8名／幼稚園児中心）の参加があり、棚田ビオトープで生物を採取しました。暑さで虫かごの生き物が死んでしまうので、採取したら日陰に置き（棚田で日陰を探すのが難しい）ました。開始20分後には第一回目の採取の振り返りをしました。ヤマアカガエル、サワガニなどを参加者みんなで確認、その後、放してやりました。1時間弱で終了、拠点施設である「なごみの家」のテラス（屋根付き屋外）で、第二回目の採取の振り返りとしてミソハギ、ヨモギなど植物も紹介しました。

なお、9月28日開催の棚田ビオトープの稲刈りについては次回報告します。また、開催できなかった場合、その旨を報告します。
(相田 明)

静岡県松崎町

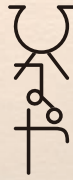
石部棚田で昔ながらの米づくり

棚田の草刈り



今年の耕作をあきらめた8枚の田んぼですが、そのまま放置していると周りの耕作している田んぼに迷惑がかかるので、スタッフ2人で、8/2、3日に草刈りに行ってきました。都心は陽性率激増中。やはり町や集落の方を心配させる訳にはいかないので、基本、集落の人とは接しない。方が一會ってしまったらマスク&ソーシャルディスタンスで挨拶程度にする。使った器具は消毒する。現地の飲食店は利用しないなどの対策をして向かいました。

草刈りは一日では終わらず、翌日早朝5時から作業をして、保存会の方々が来る7時半までに終わらせ、器具を消毒して棚田を後にしました。稲の植わっていない自分たちの田んぼをあらためて見るとやっぱり悲しい。しかし、1年土地を休ませ、草がたくさん入り込んだ土壌は、きっと来年のお米をどきり美味しくしてくれるでしょう。
(高桑 智雄)



開業して、洋服ともコーディネート
ネットができるカジュアル
なキモノスタイルを発信し
ています。

近年は外国人観光客の増
加も追い風となって、一昨
年には京都市と金沢市で一
棟貸しの町屋宿泊施設をス
タートしました。他に有料
老人ホーム施設（委託運営）、
宮津市と高島市（滋賀県）
では太陽光発電もおこなっ
ています。

江戸時代には人形を跳え
て御所におさめておりまし
て、それが社名（ひなや）
の由来となっています。
明治に和装品の染織業へと
鞍替えし、京都府北部や滋賀
県に工場を設けて、洋装商品
の開発や海外販路の開拓に積
極的に取り組みました。しか
し、平成の半ばからは業績が
停滞、2008年から業態
転換をはかります。2011
年に京都市東山区に店舗を

HINAYA KYOTO STYLE+STAY

KANAZAWA STAY

HINAYA SOLAR

hinaya-kyoto.co.jp



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に
協力したい!」という会員によって自
主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい「棚田」をどのように
保全していくことができるのでしょ
う?一緒に考えませんか?ぜひ、私
たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)
やホームページで豊富な棚田情報を発信
しています。会員になりこれらの活動に参
加してみませんか?

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々
と都市住民双方の協力のもとに様々なプ
ログラムを企画・運営しています。これら
の社会貢献活動に賛同し、ご支援いた
だける企業・団体・事業主様を募集してい
ます。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員)
 - 1口3万円(1口以上)

編集部から

今年も全国で稲刈りの季
節を向かえる。いや「今年も」
というか、「今年」は「誰にとつ
ても感慨深い稲刈りになる
のではないだろうか。コロ
ナ禍により世界が未曾有の
混乱に陥った2020年だ
が、そんな喧噪をよそに稲
は何事もなかったかのよう
に静かに頭を垂れる。そし
て私たち日本人に「今年も」
豊かな実りを与えてくれる。
私たち日本人は、そんな稲
の姿にあらためて何かを学
ぶべき時代なのではないだ
ろうか。

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも
見てみてください!



<http://www.tanada.or.jp>



2020年 秋号 Vol.117

発行  認定NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーションハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565